



# 自然遊学館 だより



2008 SUMMER

No. 48



■2008.7.23発行 貝塚市立自然遊学館

## ■行事レポート

- 春のハイキング「和泉葛城山」…… 1
- 5月の海で遊ぼう「渚<sup>なぎさ</sup>の生きもの」…… 2
- 第5プールのヤゴ調べ…… 3
- たわわ昆虫採集…… 4
- 「トンボの池」池さらえ 2008 春…… 5

## ■生きものよみもの

- 貝塚市のカメムシ目1. ヨコバイ亜目…… 6

## 【泉州生きもの歳時記】

- アナグマ 穴熊 …… 8
- 二色浜で見つかったスジホシムシモドキ  
とスジホシムシヤドリガイ…… 9

## ■館長コーナー

- 夏3. 噛み付く…… 10

## ■投稿

- 自然生態園「トンボの池」に  
アジアイトトンボ！（鈴子 佐幸）…… 11

## ■寄贈標本の紹介 …… 12

## ■遊学館スタッフ日誌 …… 15

## ■おしらせ …… 15

夏期特別展「美ら海<sup>ちり</sup>の貝」

表紙のクマゼミのイラストは貝塚市立二色小学校  
5年生の木室仁太さんが描いたものです。



## ■行事レポート

### 春のハイキング「和泉葛城山」

場所：蕎原～和泉葛城山

日時：2008年4月26日（土）9:30～15:00

参加者 29人

とても気持ちのよい登山びよりの日でした。バスの時間変更があったので、前回にくらべ余裕があります。

春日橋までの道は車を避けて、田んぼの横の道を通りました。目につくのはハート形の葉をもつタチツボスミレや、ナガバナタチツボスミレ・ヤブニンジン・カキドオシなどでした。また、ところどころにキラソウの紫の花もみられました。フユイチゴの赤い実も少し残っていました。春日橋のあたりでは、シャガやカテンソウがありました。

春日橋手前でトイレ休憩を取り、葛城山Aコースにはいります。途中ジロボウエンゴサクの花があり、名前が変わっているのでみんなで観察しました。2、3日前に雨が降ったので川の水量は多く、ところどころの滝は見応えがありました。数年前から増えているイワタバコが崖に沢山生えていました。花の時期が楽しみです。さらに登るとコバノミツバツツジのピンクの花が落ちていました。時期が少し遅かったのでしょうか。はしかけの滝に近づくとチャルメルソウ・ニリンソウがあり、さらに登るとヤマリソウの花が咲いていました。

ブナがあるあたりまで登ると、コバノミツバツツジが満開でした。ナガバモミジイチゴの白い花もきれいに咲き、シハイスミ



ヤマリソウ（むらさき科）

レ・エイザンスミレ・ミヤマシキミなどが見られました。

最後の難関の長い階段を登りきると頂上です。頂上ではゆっくりと昼食をとりました。別のグループの方がタラのてんぷらを配ってくれました。今年は沢山とれたそうです。

帰りはBコースをいっきに下りました。



コバノミツバツツジ（つつじ科）

（湯浅 幸子）

## 5月の海で遊ぼう「<sup>なぎさ</sup>渚の生きもの」

場所：二色浜～近木川河口

日時：2008年5月18日（日）10:00～15:00

参加者 38人

自然遊学館前に参加者が集合し、スタッフや講師の大阪府水産技術センターの日下部さんの紹介・挨拶の後、午前中の観察地である二色浜南端まで20分ほど歩いて移動しました。

二色浜南端の渚はヨットハーバーに隣接しているため、石積みの傾斜護岸がある砂浜になっています。この時期、砂浜はハマヒルガオの薄紅色が目を楽しませてくれるお花畑が広がっています。波打ち際には、参加者が思い思いにタモ網で生きものをすくったり、石積みの隙間に隠れたヤドカリや貝、フナムシなどを見つけていきました。そして、いよいよ今年から導入した新採集道具のミニ地曳網の出番です。



地曳網の説明をする日下部講師

ゴムボートに<sup>じびきあみ</sup>地曳網を乗せ、沖合い50m迄、漕ぎ出でて網の片すそを海に投げ入れます。進路を<sup>ていせん</sup>変えて、渚<sup>かじ</sup>線と平行に舵をと

って進み、網全てを投げ入れた後、岸に向かい戻ってきました。準備完了！地曳網の両端から伸びた2本のロープのもとに参加者が別れて並び、号令とともにゆっくりと引っ張っていきます。幅10mの網ですが、海水中に漂うアナアオサがかり、「うっ、重い…」と大人も本気モードでたぐり寄せました。網の中のアナアオサにまぎれて銀鱗を輝かせていたのは、5cm程のたくさんのメバルや、アナハゼ類、キュウセンなどの魚でした。

午後からは近木川河口に場所を移して、引き続き、生きもの観察を行いました。潮がひき、広く現れた干潟には<sup>れき</sup>礫の転がっている場所や砂のたまっている場所、水たまりの場所などいろいろなところで、生きもの探しを楽しみました。しばらくたってからは、やはり地曳網を試みました。干潮時で水深が浅いので、ここではボートを使わず腰まで海につかり網を沖合いまで運びました。みんなで引っ張りあげると大半がクサブグでしたが、モクズガニもはいつてきました。



地曳網をひく（近木川河口）

観察した生きものリストは下の表に地点別で記録しています。また、今回のリス

トは、国土交通省から依頼された「大阪湾生きもの一斉調査」の記録としても提出させて頂きました。

## 第5 プールのヤゴ調べ

場所：貝塚市営第5プール（二色）

日時：2008年5月24日（土）10:00～12:00

参加者 38人

二色浜、近木川河口で観察した海岸動物 2008年5月18日

【動物】		二色浜 南端	近木川 河口				
刺胞動物門	花虫綱	イソギンチャク目	<b>タテジマイソギンチャク</b>	○	○		
	鉢虫綱	オキクラゲ科	<b>アカクラゲ</b>	○			
		ミスクラゲ科	<b>ミスクラゲ</b>	○			
軟体動物門	腹足綱	ケハダヒザガイ科	<b>ヒメケハダヒザガイ</b>		○		
		ユキノカサガイ科	<b>クモリアオガイ</b>	○	○		
		ニシキウスガイ科	<b>インダタミガイ</b>	○	○		
		タマキビガイ科	<b>アラレタマキビ</b>		○		
			<b>タマキビ</b>		○		
			<b>マルウズラタマキビ</b>		○		
		アッキガイ科	<b>イボニシ</b>	○	○		
		オリレヨフハイ科	<b>アラムシロガイ</b>		○		
		有肺亜綱	<b>カラマツガイ</b>	○	○		
		二枚貝綱	マルスダレガイ科	<b>アサリ</b>	○	○	
			イタボガキ科	<b>マガキ</b>	○	○	
				<b>ケガキ</b>		○	
		フネガイ科	<b>カリガネエガイ</b>		○		
		イガイ科	<b>ムラサキイガイ</b>		○		
環形動物門	多毛綱	ゴカイ科	<b>アシナゴゴカイ</b>		○		
		等脚目	<b>フナムシ</b>	○	○		
節足動物門	軟甲綱	端脚目	<b>ヨコエビ類</b>	○	○		
			<b>ワレカラ類</b>		○		
		ホンヤドカリ科	<b>ユビナガホンヤドカリ</b>	○	○		
			<b>ヨモギホンヤドカリ</b>	○	○		
		テナガエビ科	<b>スジエビモドキ</b>	○	○		
			<b>ユビナガスジエビ</b>		○		
		イワガニ科	<b>モクスガニ</b>		○		
			<b>イソガニ</b>	○			
			<b>ケフサイソガニ</b>		○		
			<b>チチュウカイミドリガニ</b>		○		
棘皮動物門	ヒトデ綱	ヒメヒトデ目	<b>イトマキヒトデ</b>	○			
		脊椎動物門	硬骨魚綱	フササゴ科	<b>メバル</b>	○	
				アイナメ科	<b>アイナメ</b>		○
				カジカ科	<b>アナハゼ類</b>	○	○
				スズキ科	<b>スズキ</b>		○
				ベラ科	<b>キュウセン</b>	○	
				ネズボ科	<b>トビヌメリ</b>	○	○
				ボラ科	<b>ボラ類</b>		○
				カレイ科	<b>イシガレイ</b>		○
				ハゼ科	<b>ミミズハゼ</b>		○
<b>ヒメハゼ</b>	○				○		
フグ科	<b>クサフグ</b>		○				
爬虫類綱	ヌマガメ科	<b>ミシシッピーアカミミガメ</b>	○				

今回の第5プールのヤゴ救出は、きょうきよ決まった行事で、募集をかけるのがおそかったので、参加者の人数も去年より少なくなりました。曇りでいつ雨が降ってきてもおかしくない天気でしたが、参加者が来てくれたので、行事を進めていくことにしました。大プールのヤゴは少なかったのですが参加者と一緒にヤゴを救出しました。大プールで30分間ヤゴを取り終わってから、ヤゴの同定をして、1番多かったのは、アカネ類の仲間でした。



大プールでのヤゴ救出

ヤゴの説明をしていると小雨が降ってきました。自由解散の後に残ってくださった参加者には、幼児プールのヤゴの救出を手伝ってもらいました。約10分間で、大プールを上回る数が採れたので、ビックリしました。参加者の方々が手伝ってくださった事により、たくさんのヤゴを救出できました。ありがとうございます。救出したヤゴは羽化して、トンボに成って飛んでいきま

(山田 浩二)

した。

以下、今回、第5プールの救出したヤゴのリストです。

大プール(50m) 30分 合計78個体

アカネ類 58

ギンヤンマ 17

クロスジギンヤンマ 1

シオカラトンボ 1

アオモンイトトンボ 1

幼児プール 約10分 合計665個体

アカネ類 660

ギンヤンマ 3

シオカラトンボ 2

(鈴子 勝也)

## たわわ昆虫採集

場所：水間から馬場たわわ

日時：2008年5月24日(土) 10:00~12:00

参加者13人

水間駅に集合後、馬場まで歩きながら昆虫採集を楽しみました。当日は雨が心配され、不参加の方やプールのヤゴ調べに回ってもらった方もいて、参加者は「雨でもOK」という覚悟で来られた方ばかりとなりました。行けるところまで、ということで水間駅を出発しました。

道沿いの軒下でツバメの巣を観察し、住宅街を抜けると、川沿いの草むらに水色の模様が鮮やかなラミーカミキリがとまっていました。少し進むと、テントウムシの幼

虫、蛹、成虫がたくさん観察できました。この頃から心配していた雨が降り出しました。まだ小降りだったので観察を続けました。

たわわに到着後、小池わきの小屋で昼食をとりました。いよいよ雨が本格的に降ってきました。小池周辺からはアマガエルとシュレーゲルアオガエルの鳴き声がしていました。もっと観察を続けたかったのですが、悪天候のため水間駅まで歩いて戻り、1時30分頃解散しました。

天候には恵まれませんでした。短時間にもかかわらず色々な生きものを観察できました。以下に、行事当日に確認された昆虫のリストを示しました。

トンボ目 アオイトトンボ幼虫

バッタ目 キリギリス幼虫、ヒメギス幼虫、ショウリョウバッタ幼虫、ヒシバッタ属

カマキリ目 オオカマキリふ化後卵囊

カメムシ目 ツマグロオオヨコバイ、セイタカアワダチソウヒゲナガアブラムシ、ソラマメヒゲナガアブラムシ、ヒメアメンボ、クヌギカメムシ、マルカメムシ

コウチュウ目 ヤコンオサムシ、サビキコリ、ヨツボシケシキスイ、ジョウカイボン、アオカミキリモドキ、ナナホシテントウ、ナミテントウ、ラミーカミキリ、ベニカミキリ

トビケラ目 ホタルトビケラ属幼虫

チョウ目 モンキチョウ、ヒメウラナミジャノメ、サカハチチョウ、ウンモンクチバ属

ハエ目 エノキトガリタマバエの虫こぶ(エノキハトガリフシ)、ホソヒラタアブ、ヒゲナガヤチバエ

(岡田 恵太郎)

## 「トンボの池」池さらえ 2008 春

場所：二色市民の森自然生態園

日時：2008年6月14日(土)10:00～15:00

参加者 33 人

自然生態園「トンボの池」では、1997年の完成から2005年まで毎年、冬の約1ヶ月間、池の水を抜いて池干しを行ってきました（その期間、ヤゴは別の水槽で飼育）。各地のビオトープでは、完成後すぐにトンボが増えるものの、数年後をピークに減り始めるという現象が起こっているようですが（川北、2003；大串、2004、など）、このトンボの池でもヤゴの種数と個体数が減少してしまいました（図1）。

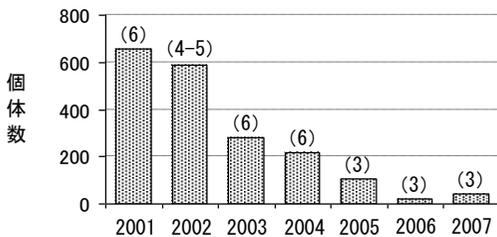


図1. 自然生態園「トンボの池」における池さらえ時のトンボの種数と個体数（括弧内の値はトンボの種数）

2007年は6月に池さらえをしたので、それ以前の12月の記録とは単純には比較できません（幼虫の死亡率や、それぞれの種の越冬ステージを考慮する必要があります）。

そこで、2006年12月に池さらえだけを行い（池干しをしないで）、2007年6月に時期を変えて池さらえ+ヤゴ調べを実施しました。作業の変更点は、実施時期と池干しの中止です。そして、今年も同じく、池の水を抜いて池さらえを行い、ヤゴや他の生きものの種と個体数を調べ、すぐに水と生きものを戻すという作業を行いました。

当日に確認された生きもの、および4月から数えたトンボの羽化殻のリストは、以下の通りです。

### トンボ幼虫 (6種 235 個体)

アオイトトンボ 148、アオモンイトトンボ属 3、マルタンヤンマ 21、シオカラトンボ 2、ノシメトンボ 5、タイリクアカネ 56

### アメリカザリガニ (22 個体)

大6、小16

### その他

フタバカゲロウ属幼虫、ヒメアメンボ、コマツモムシ、ケシカタピロアメンボ、マルミズムシ、チビゲンゴロウ、チャイロチビゲンゴロウ、キイロヒラタガムシ、ユスリカ科幼虫、サカマキガイ、ハブタエモノアラガイ、イトミミズ類

### トンボの羽化殻 (7種 868 個体)

#### 4月12日～6月14日

アオイトトンボ 692、クロスジギンヤンマ 32、ギンヤンマ 5、ギンヤンマ属 2、マルタンヤンマ 1、シオカラトンボ 14、アカネ属 107、ショウジョウトンボ 15

クロスジギンヤンマ、ギンヤンマ、ショウジョウトンボは、作業日以前に羽化が終了してしまっただけです。当日に確認されたヤゴの6種235個体という値は、昨年の3種40個体と比べて、種数と個体数とも増えました。マルタンヤンマは2004年12月以来の確認となり、個体数はこれまでの記録の中では最多となりました。

池さらえの時期を変更したほか、昨年の

作業日には、ヤゴの餌となる小動物を増やすために、「どんぐりの森」のクヌギやコナラの枯れた枝と葉を池の底に沈め、産卵場所を増やすために水面にヨシの茎を浮かべました。また、作業日以前から大川内幸三さんがほぼ毎日仕掛けをして321個体のアメリカザリガニを除去してくれました。

厳密に言えば、これらの変更点のうち、いずれが有効であったのかは分かりませんが、少なくともこれらの作業をすべて行えば、瀕死の状態であったトンボのビオトープが復活することが分かりました（ただ、個体数という点では2001年前後と比べると少なく、完全復活とは言えません）。

#### 引用文献

大串龍一（2004）「水生昆虫の世界—淡水と陸上をつなぐ生命」、東海大学出版会、219pp.

川北裕之（2003）学校ビオトープのトンボ. 昆虫と自然 38（14）：16-20.

（自然遊学館わくわくクラブ）

## ■生きものよみもの

### 貝塚市のカメムシ目 1. ヨコバイ亜目

自然遊学館では2003年に創館10周年を記念して、それまでの調査結果や寄贈標本をまとめた「貝塚市の動植物リスト」（以下、10周年リスト）を発表しました。その中で、カメムシ目は35科144種が記録されています。前号で紹介したバッタ目は、10周年リストでは90種があげられていて、2007年

度末までに5種が追加されました。チョウ類も71種から5種追加されています。トンボ目では追加がなく73種のままです。カマキリ目は6種からサツマヒメカマキリが追加されて7種となっています。これらが比較的調査が進んだグループですが、カメムシ目はどうでしょうか。今号から2回に分けて、貝塚市のカメムシ目について、ごく簡単に紹介したいと思います。

2回に分けるのは誌面の都合もありますが、カメムシ目がヨコバイ亜目（同翅亜目）とカメムシ亜目（異翅亜目）に分かれるということもあります。ヨコバイ亜目にはヨコバイのほか、セミ、アワフキムシ、ウンカ、アブラムシなどが含まれ、カメムシ亜目には陸生のカメムシ類のほか、アメンボ、コオイムシ、タイコウチ、マツモムシなどの水生のグループが含まれます。

カメムシ目はストローのような長い口吻をもつのが特徴です。口吻は、1対の大腮（大顎）と1対の小腮（小顎）が中空のストローをつくっているものです（それが、鞘状になった下唇に収まっています）。その口吻が、ヨコバイ亜目では頭部の後方から出るのに対して、カメムシ亜目では頭部の前方から出るという違いがあります（図1）。また、カメムシ亜目では前翅の基部が角質化する（硬くなる）という違いもあります。

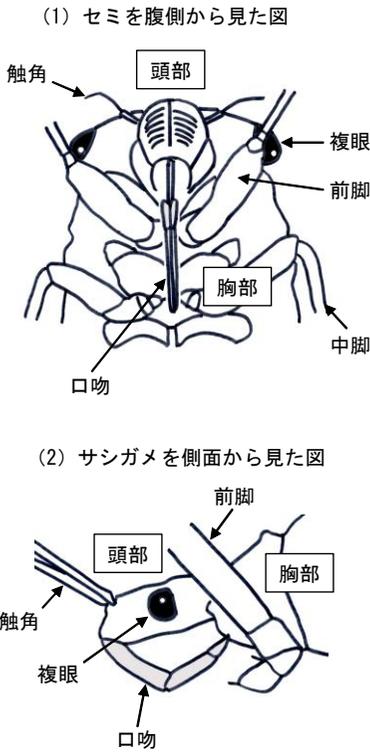


図 1. カメムシ目の口吻の形態  
 (1) セミ科 (ヨコバイ亜目の例)  
 (2) サシガメ科 (カメムシ亜目の例)

この2つの亜目のうち、今回はヨコバイ亜目を紹介します。ヨコバイ亜目は日本では約2000種が記録され、すべての種が陸生で、植物に口吻を突き刺して汁液を吸う植食者です(林、1996)。

先の10周年リストでは貝塚市から10科32種が記録されていて、現在は19科112種まで増えています(表1)。これは、アブラムシ科が1種から16種へ、ヨコバイ科が11種から47種へ増えたことが大きく(表1)、逆に言えば、創館から10年間それほど熱心に調べられてこなかったとも言えます。セミ科以外は小型の種がほとんどということも理由の一つでしょう(セミ科は8種のま

ま変わっていません)。でも、ウンカ、ヨコバイ、アブラムシなど重要な農業害虫を含むグループもあり、私たちの生活に無関係ということはありません。

表1. 貝塚市のヨコバイ亜目各科の種数  
 (貝塚市立自然遊学館所蔵標本よりカウント)

科名	2003年12月	2008年3月
セミ科	8	8
アワフキムシ科	6	9
コガシラアワフキ科	1	1
トゲアワフキムシ科		1
ツノゼミ科		2
ヨコバイ科	11	47
ヒシウンカ科		3
ウンカ科		7
ハネナガウンカ科		1
コガシラウンカ科		2
テングスケバ科	1	2
ゲンバイウンカ科		1
マルウンカ科	1	2
アオバハゴロモ科	1	2
ハゴロモ科	1	2
キジラミ科	1	4
アブラムシ科	1	16
カタカイガラムシ科		1
マルカイガラムシ科		1

2003年12月時点の種数は、10周年リストによる。

現在までに確認された112種の中で、大阪府レッドデータブックにあげられている種は、準絶滅危惧のエゾゼミとテングオオヨコバイの2種です。エゾゼミは、和泉葛城山の山頂付近で鳴き声は毎年聞いていますが、採集数はそれほど多くありません。テングオオヨコバイは和泉葛城山の山頂付近と近木川の本谷で採集されています(図2)。

【泉州生きもの歳時記】  
アナグマ 穴熊



図2. テングオオヨコバイ

10周年リストを発表した際に、「貝塚市のリストとして、アブラムシ科が1種というのはあまりにひどい」という意見を頂戴しました。この4年間でアブラムシ科は16種になりましたが、まだ不十分です。ヨコバイ亜目全体に関しても、大阪府野生生物目録では232種がリストアップされていること、およびこの4年間の種数の増え具合から判断して、まだまだ種数は増える余地があると思われます。

参考文献

- 「大阪府野生生物目録」(大阪府、2000)
- 「大阪府レッドデータブック」(大阪府、2000)
- 「貝塚の自然 -貝塚市立自然遊学館創館10周年記念号-」、(2003)
- 「日本動物大百科 昆虫I」(平凡社、1996) :  
ヨコバイ亜目 : 林正美

(岩崎 拓)



大川の民家にあらわれた。  
(2007年6月24日、多田理さん撮影)

自然遊学館の雑木林ジオラマに、新しくアナグマの剥製が加わりました。2007年10月2日、貝塚市大川の多田理さんが車にはねられて死んでいるのを見つけ、館に連絡をくださったものです。

ずんぐりとした身体に短い尾、長い爪を持つ前足。アナグマは、名前だけ知っているでも実際に野外で見たことがない動物の代表でしょう。街中に適応してしたたかに生きるタヌキやアライグマと違い、アナグマが生息するのは主に山地です。これは彼らが神経質だけでなく、主にミミズなどの土壌動物や幼虫などを食べる食生活が都市向きでないからかもしれません。しかし、関東地方では住宅地にも出没しているので、大阪のアナグマが人慣れしはじめる時がいずれ来るのかもしれません。

府下では、北摂と南泉州の山地、生駒山で記録があります。確実な記録は少なく、実際の生息数も少ないのではないかと考えられています。

かかったら、自然遊学館にぜひ寄贈してください。

(西澤 真樹子)



**交通事故に遭ったアナグマ。  
左の写真と違い、体色の明るい個体。**

自然遊学館では貝塚市にどのような哺乳類がいるのか目撃記録を集めたり、交通事故の遺体を標本にしたり、小型のネズミ類は生け捕り罠をかけたりにして調査しています。

#### 貝塚市で記録されている哺乳類

- \* げっ歯目：アカネズミ、ヒメネズミ、カヤネズミ、ハツカネズミ、ニホンリス
- \* 食虫目：コウベモグラ、ヒミズ、ジネズミ
- \* 食肉目：タヌキ、アライグマ、アナグマ、イタチ、チョウセンイタチ、テン
- \* ウサギ目：ニホンノウサギ
- \* 翼手目：アブラコウモリ
- \* クジラ目：スナメリ
- \* 偶蹄目：イノシシ



2008年5月現在、市内記録されている哺乳類は18種。ここに一般的なドブネズミやクマネズミが入っていないのは、実は、きちんとした標本が館にないからです。みなさんの報告で、新しく種類が増えるかもしれません。もし家でネズミ取りにネズミが

## 二色浜で見つかったスジホシムシモドキとスジホシムシヤドリガイ

2008年7月6日、二色浜海岸において貝塚の海域では初記録となるスジホシムシモドキ（星口動物<sup>ほしくち</sup>）とそれに外部寄生した二枚貝のスジホシムシヤドリガイが採集されました。

貝塚市二色にお住まいの渡辺久和さんが潮干狩りでアサリを採集していたところ、変わった生物が採れたとのことで、自然遊学館に持参されました。体長約20cmの紐状の形をしたスジホシムシモドキが2個体で、よく観察すると、その1個体には殻長5mm程のスジホシムシヤドリガイという二枚貝が2個体、もう1個体のスジホシムシモドキにはこの貝が1個体ついていました。

スジホシムシモドキは、砂泥に潜って生活し、「星口動物門」という動物門に属する生きものです。この仲間は体の先端から時折、パッと出される触手を星になぞらえて、そのような名がついています。国内の干潟に生息する底生生物の現状をまとめたWWF JAPAN サイエンスレポート(和田ほか、1996)によると、瀬戸内海で多産して釣り餌(「タケゾウ」などと呼称)となってきたが、日本沿岸全体では希少になりつつあると判断されています。また、スジホシムシヤドリガイは、1980年代前半に大阪府岬町の深日沖で採集された宿主不明の記録があ

りますが（岡村・児嶋、1984）、大阪湾では報告例の少ない貴重な記録です。



**スジホシムシモドキ**  
 (二色浜 2008年7月6日、体長約20cm)

スジホシムシモドキ  
 学名 *Siphonosoma cumanense*  
 星口動物門スジホシムシ綱スジホシムシ科



**スジホシムシヤドリガイ**  
 (二色浜 2008年7月6日、殻長5mm、  
 スジホシムシモドキに外部寄生)

スジホシムシヤドリガイ  
 学名 *Nipponomyrella subtruncata*  
 マルスダレガイ目ブンブクヤドリガイ科

引用文献

岡村親一郎・児嶋格 (1984) 大阪湾の貝類相 I - 二枚貝類の生息記録 - 南紀生物 26 (2) : 121-126.

(山田 浩二)

## ■館長コーナー

### 夏3. 噛み付く

私の少年時代は毎日どこかで喧嘩がありました。それほど日常茶飯事の出来事でしたが、そのたびに心はどきどきし、人事ながら恐怖に晒されるのでした。暴力は極端に嫌いだった私も無抵抗ながら、時折叩かれたり蹴られたりもしました。その折の喧嘩は平手打ちであつたり、拳骨で顔を狙つたり、足で相手のお腹をけつたりが主な手口でした。時には頭突きとか「噛む」というのがありましたが、バットやナイフなどは登場しませんでした。しかし、子どもたちにとって誰がどんな喧嘩のやり口が得意か、その情報は網羅していました。例えば、〇〇君はボクシングのように殴るのが得意だとか、△△君は組み手をすると必ず頭突きをしてくるとかいったようなデーターでした。今から思えばお腹の底から愉快になるのは、□□君は「噛むぞ!」「あいつに噛まれたら、後まで痛いぞ!」というものでした。

「館長の日 No. 22」で書かせていただきましたものに「新スター誕生」というのがあります。昨年の8月から本館のスターとなりましたタコのことです。「みさきちゃん」といいました。この7月8日に死んでしまいましたが、その間本当に本館の人気者でした。夜行性で神経質なタコの常識を破って、昼に来館してくださる方々に愛想をふりまいてきました。時には私たちの手に餌をのせ、水槽に入れますと、「手のり」をしました。



私たちが通常「頭」と思っている部分は実はお腹なのですが、そのお腹の1.5倍ほどのイシガニを餌にしても何時間かの後には食べてしまいます。通称「カラス口」という鋭いけれどあの小さな口でどうして食べることができるのでしょうか。みさきちゃんと1年間過ごしてわかったことなのですが、タコの8本の足の間に伸縮自在の風呂敷様のものがあります。餌を見つけるとその風呂敷様のもので包み込んでしまいます。おそらくは餌を窒息させるのでしょうか。その状態にして、あの強烈な吸盤で二枚貝であればその殻をはずして中身を食べるのです。カニなら口と吸盤との連動作業で上手に完食です。食べるとは口で食べるのですから、イシガニの強力なハサミに負けないのですから大したものです。□□君の「噛む」より恐怖の事件でしょうか。

私が中学1年生の時にTさんという友人がいました。彼は魚釣りなど、アウトドアの天才でした。私の師匠でもありました。そのTさんには2つ上のお兄さんがいました。実際一緒に海などへは行ったことはなかったのですが、Tさんはその兄をとてつもなく「偉大」といっていましたから、その実力は相当なものなのでしょう。

兄さんは夏休みには近くの海で潜って（もちろん素潜り）貝やタコをとっていました。ある日、大ダコを見つけ、早速モリで突こうとしました。大ダコで緊張したのかそのモリが手から滑って落ちてしまいました。よせばよいのに、その兄さんは見たことのない大物にえもいわれぬ闘争心が沸き、素手で大ダコに向かったのです。大ダコは兄さんに吸い付き、どう格闘しても獲物にするどころか、離してくれもしません。絶体絶命、意識が薄れていきます。そんな状況の中で兄さんは噛み付いたのです。

大ダコの目と目の間を全身の力で噛み付いたのです。大ダコの吸い付く力が弱くなってきました。

思い切り空気を吸ってモリを拾って岩陰に隠れたタコに一撃を浴びせました。なんと1貫目(3.75kg)もあるタコであったと聞きました。

(川村 甚吉)

## ■ 投稿

### 自然生態園「トンボの池」に アジアイトトンボ！

4月12日(土)は、定例の自然生態園(貝塚市二色)の作業日でした。作業日日和のなか、午前中はザリガニ釣りや草刈り作業を、午後からはヤゴ調査をしました。午前中のザリガニ釣りでは、全然ザリガニが釣れずに、もんどり(仕掛け)の中に入っていたザリガニが数匹いるだけでした。

昼食後、午後からのヤゴ調査作業を開始しようとした時、江本玲子さんの「あっ、トンボ！」の声にトンボの池を見ると、枝の先から枝の先に移動しているイトトンボがいました。トンボの池では今年初めて見るトンボです。イトトンボの仲間というところまではわかったのですが、何イトトンボというところまではわからなかったので、岩崎さんをお願いして捕まえてもらいました。

アオモンイトトンボに似ているのだけれど、それにしては、ちょっと小型に思えるということで、『日本産トンボ幼虫・成虫検索図説』で調べることにしました。検索の結果、体長と腹部第2節の黒色条が前節とつながっていることからアジアイトトンボであることがわかりました。



**アジアイトトンボ♀**

**4月28日に別の個体を発見し、  
写真に収めることができました。**

今までトンボの池では見つかっていなかった種類なので、トンボの池の種類が1種増え、これまでに確認されたトンボは19種になりました。ザリガニの数が減り、ヤゴ

の数が増えると、また新しいトンボの種類が見つかるのではないかと期待しています。

#### 参考文献

『日本産トンボ幼虫・成虫検索図説』、石田昇三 他  
3名 著、東海大学出版会。

(鈴子 佐幸)

## ■寄贈標本の紹介

以下の方々より標本を寄贈していただきました。お礼申し上げます。

(※2008年6月分まで)

### <哺乳類>

◆五藤武史さんより

イノシシ (幼獣) 死体1点

貝塚市蕎原 2008年5月15日採集

◆児嶋 格さんより

ヒメネズミ 2点

紀ノ川市桃山町 2008年6月24日採集

### <鳥類>

◆松本卓三さんより

イカル 死体1点

府立少年自然の家 2008年4月9日採集

◆川口博さんより

ムクドリ 死体1点

貝塚市二色 2008年6月7日採集

### <爬虫類>

◆大阪府水産技術センターより

アカウミガメ 死体1点

岬町多奈川 2008年6月26日 定置網

**<魚類>**

◆食野俊男さんより

ウキゴリ 生体 8 点

貝塚市畠中 2008 年 6 月 26 日採集

**<棘皮動物>**

◆西田信繁さんより

ハスノハカシパン 生体 1 点

せんなん里海公園 2008 年 4 月 5 日採集

◆大矢航太郎さんより

マナマコ 生体 2 点

近木川河口 2008 年 4 月 12 日採集

**<甲殻類>**

◆田中正視さん、鈴子佐幸さんより

イソテッポウエビ 生体 1 点

男里川河口右岸 2008 年 4 月 19 日採集

◆中川航太さん、鴨崎泰周さんより

イソガニ 生体 6 点

ヒライソガニ 生体 10 点

アカテガニ 生体 1 点

二色運河 2008 年 4 月 29 日採集

◆岩井康洋さんから

ヨモギホンヤドカリ 生体 2 点

二色運河 2008 年 4 月 29 日採集

◆食野俊男さんより

スジエビ 生体 数 100 点

貝塚市畠中 2008 年 6 月 26 日 採集

**<軟体動物>**

◆南 修さんより

ケマンガイ 生体 3 点

三重県五ヶ所浦 2008 年 5 月 5 日採集

◆江本大地さんより

オキナガイ 死体 1 点

フジナミガイ 殻 1 点

タマエガイ 殻 1 点

男里川河口 2008 年 5 月 25 日採集

**<節足動物>**

◆岩井康洋さんより

トビズムカデ 1 点

貝塚市二色 2008 年 6 月 6 日採集

**<昆虫>**

◆佐々木仁さんより

イトカメムシ 成虫 1 点

貝塚市千石荘西 2008 年 4 月 5 日採集

◆佐々木龍さんより

アカシマサシガメ 成虫 1 点

ムネアカアワフキ 成虫 1 点

ヨツボシテントウダマシ 成虫 1 点

キクビアオハムシ 成虫 1 点

ウスチャコガネ 成虫 1 点

ミヤマクビボソジョウカイ 成虫 1 点

リンゴコフキゾウムシ 成虫 1 点

キスイモドキ 成虫 1 点

貝塚市馬場 2008 年 4 月 27 日採集

ラミーカミキリ 成虫 1 点

貝塚市脇浜 2008 年 5 月 15 日採集

◆五藤武史さんより

カメノコテントウ 成虫 1 点

貝塚市蕎原 2007 年 11 月 25 日採集

オオゾウムシ 成虫 1 点

貝塚市蕎原 2008 年 5 月 7 日採集

シロトラカミキリ 成虫 1 点

貝塚市蕎原 2008 年 5 月 8 日採集

ヒゲナガオトシブミ 揺籃 5 点

貝塚市蕎原 2008 年 5 月 9 日採集

アトボシアオゴミムシ 成虫 1 点  
貝塚市蕎原 2008 年 5 月 12 日採集  
ヒメシモフリコメツキ 成虫 1 点  
ヒメクロサナエ 成虫 1 点  
クロサナエ 成虫 1 点  
貝塚市蕎原 2008 年 5 月 14 日採集  
ナガナカグロヒメコメツキ 成虫 1 点  
貝塚市蕎原 2008 年 5 月 17 日採集  
マルウンカ 成虫 1 点  
貝塚市蕎原 2008 年 6 月 13 日採集  
ノコギリカメムシ 成虫 1 点  
貝塚市蕎原 2008 年 6 月 17 日採集  
マルウンカ 成虫 1 点  
貝塚市蕎原 2008 年 6 月 17 日採集  
ヒメサナエ 成虫 1 点  
貝塚市稲谷 2008 年 6 月 17 日採集  
ネキトンボ 羽化殻 1 点  
貝塚市蕎原 2008 年 6 月 17 日採集

- ◆元林幸夫さんより  
ベニカミキリ 成虫 1 点  
貝塚市名越 2008 年 5 月 24 日採集
- ◆影山拓海さんより  
ベニカミキリ 成虫 1 点  
貝塚市馬場 2008 年 5 月 24 日採集
- ◆好浦大貴さんより  
セグロアシナガバチ 巣 1 点  
貝塚市二色 2008 年 5 月 22 日採集  
ウメエダシャク 蛹 1 点  
貝塚市二色 2008 年 5 月 26 日採集
- ◆中川航太さんより  
クマバチ 成虫 1 点  
貝塚市二色 2008 年 6 月 6 日採集
- ◆小山諭さんより  
ヒラズゲンセイ 成虫 1 点  
貝塚市福田 2008 年 6 月 11 日採集

- ◆George Fyson さんより  
オオキンカメムシ 成虫 1 点  
泉大津市 2008 年 6 月 19 日採集
- ◆森本静子さんより  
タベサナエ、フタスジサナエ、シオヤトンボ アクリル封入標本各 1 点

#### <菌類>

- ◆平田幸子さんより  
セミタケ、ハツタケ、コウモリタケ 4 点  
二色浜公園 2008 年 6 月 11 日採集

#### <植物>

- ◆元林幸夫さんより  
イシクラゲ 1 点  
貝塚市名越 2008 年 4 月採集

#### <写真>

- ◆五藤武史さんより  
ヒメクロサナエ 成虫 4 枚  
クロサナエ 成虫 3 枚  
ギユウリキマイマイ 2 枚  
貝塚市蕎原 2008 年 5 月 14 日撮影  
ホソミオツネントンボ 成虫 1 枚  
貝塚市木積 2008 年 5 月 14 日撮影  
ダビドサナエ 成虫 1 点  
ムカシトンボ 成虫 1 点  
シオヤトンボ 成虫 1 点  
貝塚市蕎原 2008 年 5 月 15 日撮影  
モノサシトンボ 成虫 1 点  
貝塚市木積 2008 年 5 月 15 日撮影

## ■ありがとう

クモ類の分類が専門の座古禎三さんに、自然遊学館が所蔵する貝塚産のクモ標本80点を同定していただきました。ありがとうございます。(岩崎・白木)

## ■遊学館スタッフ日誌

5月7～10日、沖縄本島へこの夏の特別展のために行ってきました。大浦湾、羽地内海、泡瀬などの干潟を回りましたが、どこも埋立て計画が進行中とのこと。今回、お世話になりました沖縄で貝類の調査研究を続ける名和純さんの「沖縄の海岸には未来がない…」と深いため息まじりにつぶやいた言葉が重かったです。(山)

6月30日、ふと3ヶ月を振り返ってみると、何も思い出せないのである。記憶もおぼろげになり、感受性も皆無になっているようだ。夏休みがほしい。ついでお金も。  
(岩)

## ■おしらせ

### 夏期特別展「<sup>ちゅ</sup>美ら海の貝」

沖縄本島、宮古島、石垣島、西表島などの琉球列島には豊かな美しい自然が残されていて、美ら海、美ら島と呼ばれています。亜熱帯気候に属するこの地域には干潟やマングローブ林、サンゴ礁などの自然海岸があり、そこに数多くの貝類が生息しています。今回の特別展ではこれら琉球列島の貝

にスポットを当てました。展示している貝は永年、貝類を調査・蒐集されている児嶋格さん（自然遊学館客員講師）のコレクションです。“美ら海の貝”を通して、様々な貝の造形美、色彩の豊かさ、貝の住む多様な環境など興味深い世界に想いをめぐらせて頂ければ幸いです。



あわせ  
泡瀬の広大なサンゴ礁干潟

場所：自然遊学館多目的室  
期間：7月19日～8月31日

\* 自然遊学館だよりのバックナンバーは下記のホームページよりご覧いただけます。

自然遊学館だより 2008 夏号 (No. 48)

貝塚市立自然遊学館

〒597-0091

大阪府貝塚市二色3丁目26-1

Tel. 072 (431) 8457

Fax. 072 (431) 8458

E-mail: shizen@city.kaizuka.lg.jp

<http://www.city.kaizuka.lg.jp/shizen/index.htm>

発行日 2008.7.23

この小冊子は庁内印刷で作成しています。